

花傳巻六

特別  
手12  
3606  
6





特  
412  
3606  
6



物まき乃志あく榮ま所く〜志あ〜  
はる乃かんようあれい志あ〜をうふも  
だ〜あむ〜凡何事〜なもののこさ〜あ  
せんり本意なわ然とも又も〜に〜わて源き  
浅きを志る〜したとひ本うわす〜やき楹汲  
なものの風情ももなわ所〜きわきな〜世人き  
りう進すわ〜か〜ん志〜く〜みま  
〜きなわ上乃同よみゆへ〜も〜み〜い  
りや〜て抄の〜ろき取ま〜ひ〜こ〜ら  
〜く〜

一女群凡わ〜わりいわりき志〜乃た〜あ〜あ〜  
似合ぶ〜也さわあ〜是一大事〜也ま〜





ふしそ見くゆききれい見あぢく女清あし  
ふとのそ内あつたまひんるすあけまいよしく  
きぬるあぬきやういあしひるへしこよ乃  
つひのかりいつひよふあゆいすあまの冥を  
たやまううへこきぬ小袖乃いつてこち  
おかりこのすこころとあむもてなり志し  
拍子よは拍狂あとのかりあふきよてもあま  
かうよてもあまのよまよこと持さこ  
めいしてまらへきぬたるまあふあうく  
とあまこころてこひさすくよあいたをや  
う小威へうかのゆちやうああのけいみめ  
わろく見ゆいけいまこころあまうく

さそくひもちをけよくもていをんあま御  
いふもく袖のあつき物をまてよまきをも  
見す今い常あともよしくとまへしこ  
中帯の時乃こ也はあし志こてをたしあめ  
とらわしやあましくとまんとあわ何のよの  
まよひなりとも志こてまらこていよるくま  
あまをけあまわりの志こてをあて本とす  
一老人乃拍まのける乃奥儀なり能の位やうて  
余亦目よあしあまの志こていこまあ一の  
大事也凡終儀よまきあまは寛めころはまも  
老ころまろこいあぬ人おぢくたたと人い本  
ころ志なくあとのわさの舞すろあま



よせぬまにやうしよと尸ぶ是せなき批判  
なわかあり志布りりきぬ老人のまうこえ  
こゝぞ人あつてい何合へん以警古のこゝ入  
そ物に似まへしうかききなきいひまをく  
をのまなきわよけくろひてまよもつへし  
一物狂びるの末一の面白き藝能也物と依ひの  
志あくおかけまにび一乃乃たたらん連者い  
十才へわさるへくろりへくく勅素の入  
へきこゝあまなき似合けき物の志あくく祿  
仏乃とらめ生具死具あといもけき物の神哉  
まあ人いたよりあゝ親子の別き子哉くろり  
男よまそくられけまよなきけくか積乃思ひよ

狂人する物狂一大事也くやうこれおしひの  
志てもいよまけすてこゝ一通よまこゝく  
ちとみ見る人のかんもあゝ思ひゆ人乃もの  
く依ひなきいりうお色く物托もあききなき  
かきよあてくろりふ所を花よあてくこゝろよ  
入てく依へいもかんあわけて見取定てまへき也  
かやうなるまうくもてあつれなる取あゝい  
無格乃上まとあるへ是をまうく思ひわく  
へ凡物狂乃出立ふあひこらやうよおこら  
へき事一せいあゝうりあゝ物狂よこゝよ  
きて時よまわて何とも花やうふおこらへし  
時の花をりあゝよまゝへ又云物まのま



ともすしに於事あり物狂いつき物の本意を  
くほふとりんた女物狂なとの或い志やたう  
志やうき志んふとのけくす何うりもわろき  
るりなりけき物乃本意をせんとして女わり  
みくいつわぬまい見ふあひ女わくを  
本意よき進いけき物のる理あり又男わりよ  
女ふとのうそ事一も同し料智なるへ  
能くけ人は料智あき事也然いけんちよ  
ちやうしたらん書家のさやうり似ありぬ  
事一なるわくことあふまはさう前んをも  
ゆるり能作人の秘す也ひと面乃ものくけひ  
能をきこめをひいて十分ふあふまき也

かん志よくをうまよあきひの物狂子何をえ  
ころところあくといりかききをりゆまい  
みらまぬああり物まの奥儀とも中けく  
大事乃申樂なとよ初い乃人の斟酌すへし  
ひと面れ大るり物狂の一大る二多儀一ひよ  
あて物りろきあ乃むよあてん事め何  
程乃大事うやうりく警古あるへし  
一脩羅こま一疎れ物也よくふまされもろき  
とあま進なわさのふますきなわ但源平  
なとの名のあ人乃り花鳥風月よ作り  
よせて見きよけ進い何うりも又たもろく  
是とに花やうなるあわたりしこを評ある



備舞乃くはひまゝに色どれを鬼に振舞よふは  
なわ又舞れよも曲舞かゝりあゝいまゝ  
舞かゝりのまはうひよろゝりはへーゆゑやあ  
らひなゝらきへてもち物成あてりさわとと  
それ時やうけうひやうまゝくゝらひてはま  
まんとたゝくへしあひかまへて何んさゝき  
まゝ舞のよよするところを羽いまへ

一 袂元は物まのい女かゝり也何とあゝいつらまは  
ようぢひあまゝい祓舞よりて鬼あゝりり  
あらんもくゆーりうまゝ但しことかゝまは  
女さあり袂よはまひのあゝり乃風舞よろゝ  
鬼よさゝら舞あゝり乃のたゝりままゝ一袂をい

いつおを祓舞よよろゝまゝやうよゝら出くけ  
たかく祓ま出物まあゝてい袂とつあせんま  
まゝけまゝい衣袈をかゝりて忌めんをけくろ  
ひてまへ

一 鬼是又しとさゝ大和の物なり大奉りなり凡  
幽冥行き物あとの鬼い面白くたゞりあまゝい  
やすーあひしひなめうけてゝはうふまは  
けうひてまゝけい物ゆゝきたたゝりあり  
まゝしゝのめいゝの鬼成まゝあゝいおろろ  
きあひの面白きとゝろさゝらまゝことゝ  
大奉り乃わゝまゝれいこまをけよくおろろ  
うゝへしけまゝまゝらゝまゝといまかゝまゝり



棟先の物まの大ききなり大なる也よくせんり  
けきて面白くはまきる理ありたろろき  
取申意なりたろろきと面白きこと  
黒白のちろひなりさき鬼の物もしろき取  
あらん志ていきとめくる上まともやへきり  
さりあうりれも鬼の物をよくせん物  
とさき花を志しぬきてなるへーされ  
わりき仕よの鬼いよく志しわとははんゆき  
さうは物ちろ鬼の物よくせん物鬼の  
物ろりはまきる理ありたろろき  
おろへー岩がよむ乃さかんとし  
一唐の事一是は凡各別の事一あきいさこめ

警古も人き題目ありてかんようおちなる  
魚一物をも同一大とありてやう乃かり  
たらんをきそ一やうりやうりやうり  
風神をもちてさうり仕よは似あり  
物なりておちをうりやうりするさうてい  
まそそあり何とても音曲とさきも唐横  
とさう減は似せたりとも面白くもさき  
風神をさきい出た更また也今横志とけり  
あうりわそめあうり徳するわくる勅素なわ  
何事りいやうりてさうはさきとて唐  
やうな何とら似まへきあきとひのあり  
まひは風神かりりてあよとあくうひ



やうしうめよまきはやくてうまよあふせ  
大形物まののまゝ以上九十ヶ条は外こまの  
たの事一のせう一ちあうらんじとを  
よしく究めたらん人のをのけうらあなる  
あるへし

一同様申樂をまじひるま當日のうま  
あき哉見し吉函をうめて志る事一いつ  
あふ事一うや 答是大事一なわそみちよえ  
たうそ人たうていんけう一ひ先も目のを  
見るよと日一のふよくお来へきあ一くお来  
へきすいさうま一しこま戸か一けぞん  
了着をうておんるよ非る又考人の清あふとの

申樂よ人群集して座敷のまこまうま  
あふよつお色しく万人乃の一回子をうと  
かく座を見るもあよ時哉えて出く一か  
あられいやうてさうまも時分乃調子うつり  
万人乃ころろ仕よのころろ振舞よ和合して  
志こしくとあまの何とするもむれ申樂の  
たやう一さわあう一申樂の貴人のあつてを  
中とすまのいも一早く清のあある時いやう  
うめすてい叶ひんさあふとふ見物家の  
座敷いまこまのまらひ或いをくれをせ  
よて人のうち志とあう一て万人乃のいまこ  
能よあういさうあうあう志こくとあ



か一方格あらん時の終は抱きわけて出候  
とも曰はしむり多くとありをもはくろひしち  
あるまひ風情を人目よこす懐ふつきくくと  
まへしきほしき成志のめんう爲也さや  
あらんは所きそも疎更うれ考人の情をあらよ  
あひうん風情をまへしきほしき成志の時乃  
しき終十分よよりらんるあへましくある  
まききなり終考人の情をよりかへはまて  
あまの肝要なり何としても所きなりや志は  
まらてをのけりし志こころみわろきまあ  
されしきほしき成志をくれもりんうへて  
見る事うれなる長せきうせむとさうあ

志るまききなり又云釈乃申樂いたること替る  
なわら候いをうくしきほしき成志に定て志め候也  
昼に二番よき終の神候よ候乃脇子まへし  
日きれ申樂志めりたちねまいろれまき終い  
なをうけしふもくしき終をまへし釈を  
人そうくあまのひるれ申樂いのちりよ  
よ候乃申樂いしきほしき成志に定て志め候也  
時分さうかし秘伝云柝一切の陽の和むる  
とくあひのきうひ成成就とは志るし昼乃機  
陽のき也されまじよも志つめて終成せんと  
あつたし人の陰陽の時分りし陰陽機を賞  
とるるし陰陽和は候いなり是終のよくお



成就のちしめ也其のしるきと見るこゝろなり  
秋の陰をまじひしよもくうきくともやうて  
よき終をまじし人乃こゝろの花めく陽也是  
秋の陰は陽接を和する成就也さきこゝ陽接は  
陽と陰接は陰とせし和すは取らざるをこれい  
成就あはまし成就あくい何り面白からん又  
ひるのうちみくも時ふまゝりて何とやらん  
座敷を志めりてさひひきやうまあゝいこと  
陰の時とらねて志何まぬ接はねてす  
昼いりやうまさきよまりて陰きよなる事  
あまき夜乃接の湯よあまきい九志あくる  
まき也座敷をこゝりて見るとは是あるはし

一回終は席破意を何とらさこむべき 答こき  
やすき事なるわ一切のこゝ席破意あまきい  
申樂も是同一終の風神を定む  
終は本説くしきこゝの志とやうあはり  
さのこゝあふまき書曲わらりとたうこ乃  
風神をすくくともやすくまにし第一終云  
なるこゝうおむまきわこゝのあなわとて祝云  
うけていああへわらひたると終いおはき  
たわ祝云なるこゝあまき書曲は是席破意  
くるゆ人也二番三番りなるわていねこゝ風  
神乃よき終をまじし終更意なるこゝもみよ  
せてよ教あ入てし又は目なとのわきの



終よはきのふりきよかこまき風神をまへし  
あくのふをいぬ日あとのあつちとりいん  
めへてとへ

一 四終の勝負れちあひのよこそいひつらふ  
答こま肝要なわまつ能敷をもちて敵のふよ  
らわころ風神をちりへてまへ一席云あるを  
おたりあめといこまなわび藝能の作者まへ  
あまそいつらなる上よこい乃まへあつひ自作  
あまといこまあふまひ東乃ちちなわはまこ  
終をぜんちとれ物乃和支あつひ能を作らん  
事一安りはる一びるの命なわさまといめ何女  
上よも終をまたさらん志てい一終南千乃兵

なわとも軍隙まへ兵色のならうん是れあ  
さまといより乃精買立合よみゆへ一敵す  
いりめきころ能成をまへ志列りりもや  
替りて見とまのあふ能をまへ一か横は敵の  
能より入てまれいひつらなる敵あれ終よけま  
ともさのまはまはるあ一めおまぬまへ  
秘事一い治定あるへし勝負は侍まへ

一 同是よ大なる不審ありや切入ころ志ての  
志りも名人なるよ只今わりき仕よ乃を合よ  
うつよ是あつる也ふ審也 答こまこまきみ  
尸のり三十以あつ時分のまあれいあつき  
仕よ乃まや花うきてこや中あは時分よめつ



うき花よて精華あり眞実の目きくい見  
わきへさあうい目きくめきくは批判の  
勝負よなるへき也さうありやうあり五十  
以来まて花のうせさうせはよはりのあは  
わうき花なわちうつるあはまうき  
かとの上まの花はうせうゆへままう  
ありやあは名本なりやむの咲ぬ時乃本をや  
うん犬様一言なりやともう花多くとさける  
をや見んうやうのたを物もあ時い一旦の  
むなりやうちあひよ勝い理なりやさきいゆ  
はるいう花り終のいのちあるを花うせる  
をも志ういよとの名望えうわをたのむ事

ふるき志てのめくまうあやまわなれ物数  
なき似せうりや花乃を極をもさうさうせい  
花のさうぬ時の草木をあつめて見んうし  
あ平千草よをわや花の名もさうかことあさ  
物うらうと見るこあおあ花也物数い  
すくあくとも一寸の花を免寛たらんして  
一弾の名望ひううあうはさいぬれは  
まは清分花ありやとあ人も人の目よ見ゆる  
うあんあうらん田舎のまあ乃さうの  
いこつうよききて白りんりことうまう同  
上よなりやともさうちうてまうまうたとい  
清分きとめうの上よ名人なりやば花乃大更



からん仕よもていどゆるちのちまていも君の  
たわちまをきよめこん上よいたとひのふ  
さう家とも花い結るへーむふのこ  
面白一期まへーされまことのむ乃結  
ころーそよはいつなるわつき花をわとも  
るのあるまーきわめ

一回解るえそくとしてしきしよをとわ  
仕よを一むきの上よまをわしるあわ  
上よれせぬの計りぬもこん又すま  
きぬやこん 答云一さい乃事よえ  
きぬとくえころころある物也位  
だましたくしころかたね事あわさ  
りなり

いふもていしきあの上よれ事よて料  
まもれちま乃きたまりたこん上  
何のむきともせきしきしき  
寛めころして万人り中は一人も  
大夫いあてまん志んいありこ  
まも不知上よの名をたの  
わろき取をも志しひいよき  
ともはまきまへはまされい上  
ころぬへしなを結と大夫と  
思をまへへしなをわらう  
よきあありといし上よも  
是神一のよいそ也もよき  
あみこわと



わきより下をいひまき浄穢あつても  
こゝろよけなくせしきて我わろき所をもひ  
志るまきなわ下を色上より五ろき所も  
みし上より初まきあつらんや初ら  
そのわきをいひまきしうきとあつらん  
らめと思ひてこゝろをたうきて人よも  
大まをいひまきしうきとあつらん  
まやしくありあつらんや初ら  
まろき所をいひまきしうきとあつらん  
わろき所をいひまきしうきとあつらん  
よき所をいひまきしうきとあつらん  
物もあつらんや初ら

たわ是則下をいひまき浄穢あつても  
なり慢あつらんや初ら  
浄穢をや終りあつらんや初ら  
手本也と大ましうきとあつらん  
上をの抽敷に入らず上至極の理  
よきところをいひまきしうきとあつらん  
とは是也

一向終り位乃善あつらんや初ら  
同きしうきとあつらんや初ら  
終るもなをのまきとあつらんや初ら  
まらけいこ此功入て位あつらんや初ら



又生後とりあひつけ也りきとりあひおの物  
なわれおへ人つけとかきと成同やうり  
物もあせりきと尸の物もの一きりきあひ也  
りも也云りきと一切はわらる代也志してと  
おのもの也然ちさうる幽玄はあき志しての  
たけのるあり是の幽玄をぬたけなわすこ  
初心の人思ふへしけいこは位成にかきん  
返りああま一位の係りかをて割けいこ  
志々るふもさう係へ一兩程くぬたけとは  
生後の事一とて得すして大形かあま  
又響古乃功入てあり落ぬまい位をのきと  
お来るのあり響古といき曲いささきもの

まのうやうの志あくつきくまるるの術なわ  
ゆるくあんとて物もあひ幽玄乃位は生地の  
物りつけらる位の功入らるる中よ素を  
めくく同文字は高流とは何事一や答是  
こまのなる響古なる能もあらく乃らひ  
とんこ也

一清あまて上よりわあくたまよ下さゆ事  
ありそ時の大ま志布一上下あまうりつて  
あまの上面まるとい思ふし譯面いこき  
あまてそ信小袖もて祝言を中入よりすり物  
なわれこ建信あ乃能のさこ也  
一せり此新但美乃つり人本くわすこやき楹汲



きりしなもあふき乃きりきりあまわあこ  
くあき翁をた乃日きよききをうろへ  
あーうあめのすをおへしてきんへーうわ  
そめもはまくれを井たすとい中おぬ物也  
云あふきのさーやうけり人志なくふとの  
新いつののしとくよあへさまへしりやき  
せうの勢よき人のうりよへんけうらにおよ  
あふきさまへー

一志がくむ桶乃る根よひりて下三分一也と  
あん志やうもてさいしき橋をきんていり  
天ああとりきてより金箔あつ結掃うきて  
をくへい同桶のおのるあさきかちん黒茶

むよんくれを井深志ろきなるを中しせぬ也  
一さ砂留流いくまををりた和かりそ外余乃  
座よりき成ゆつる不審よんけりた落葉乃  
はききぬるとりあ時いくまをむよんまけり  
とは深みあーひりけともとんり  
仕舞もるるり外一不審なわとくうへひと  
仕舞とおなるいひりこところへくんを

一綿木曲舞あふきあてまふとあわうき  
あて舞事あり中此舞横の男いよきを  
とこへとりふ雨より綿木あくまひりて葉乃  
戸内あ乃時このおへり秋いさそあけ  
はあはまこくとまうんまねとりしり



綿本を置てもとはふも時よ崩よて舞さうてもほ  
かしくふらちうり綿本こともふらちぬへきこと  
いふ所もて大夫つまじれまへよゆきうれとまき  
綿本をとれ仕舞をあしはまふ所をあやの時  
まきを所まのおもて様うらめさうふ  
はまをんて綿本はまけら又云綿本を所まは  
あけつけはもあけ是うりあまきよてまふ也  
一三編當流ハ神樂のうちふへいよてまひ五へいを  
すてく舞よあまを時あまきめくまふ是今春  
かちりあまめうりあまきよて舞是あ座の  
わうち也中入のお女僧都へ衣あまるとまきの  
仕舞よまき衣はとりつてたま乃おへうとあけ

いしきを時たま衣乃うらうらわたのまうり  
衣はあまをまのまうていしきあま難や  
らまうい清いとはゆるんといひてさう  
あうり一足二足のとは時志うくさてく  
所まいついくま位人うとまきさう也世はま  
衣をまうりわくま仕舞あけはいいかあは  
きさうや僧都の清うらへ女乃うは奉一才一  
似あつははま上志まああの水くまてま  
うら女あれハ明神上落ま所姿をまけ給ふと  
みしうら女は時ハ高僧都うらへ下落のまうり  
まうん奉一及うくうく衣はあけつてま  
仕舞はま



一うごふ大夫わさへ有衣の袖をときそわさ  
仕舞あり是あしひあり大る也袖依わき入  
誦す時れわさ一様習ひありたかつあさうま  
あゆもよりとをさうまうさうさうちやくと  
わさ世居よ人のするいひきこる人の云傳  
を一抽しあやうまはたてて結白わきよあり  
ささ一き疎あり幽冥のせんあ一是物をさ  
ふらたさ侍人のわきなわわきさうひ  
ことなわ同一くあまは清経又渡とさ同あ  
わさ一うそたち乃きあうさうま見さ  
事一あしひなり

一うけ乃仕舞面乃仕舞とつありありうけ

仕舞とはいふ一へ乃うんさを穿及ひも人の  
まをす仕舞の事一なり面の仕舞とつい  
わつあのをわさとさ侍仕舞乃事一ひとれ  
うんさをまたふ仕舞きんさいの我乃仕舞  
こももちちふ一さう乃事一はりなる  
ささなりあく口傳さ

一海士の玉の脛うとあ乃きわ程言まもときそ  
舞事一ありあ積乃たかくお助一舞もる人の  
んうけよさやうの程言一自然似ころあ乃  
あきやうもた一あむ

一鬼舞ひやう乃事一つらもあ板ゆわうけ  
あさくとほよくあむ



一舞のうち下子乃を中へまても一折まりすきい  
その時乃舞やりののりけを略してたやかくも  
おまへーさきまるとやーを俄にたさへらへ  
位ちうひたたちまぢぢとやーよむつてき  
まけもあき物よなわら也返こさやうのととき  
舞をまーかくぬるまあひ也勅別位能とも  
あまりののぬ離いたやくとあつるりむ子か  
一鬼この事多あり現在此鬼めいとこの鬼  
女の鬼怒買乃鬼とて人あとの悪念あて鬼よ  
なわころあわそふ志やたいてんく是赤色こ  
ちうあへーまきたうさいたうの位いつつと  
へもわころへし

一ゆや燈の宮をか車よのぼのふたのあーより  
同くくるよ祭すた乃あより足いたより  
一三輪乃中入乃及びみけあつてふみしたまふ  
まて大更作り物の中より出くくわきーれ  
うちて居舞中曲舞よもるもあわり又けく  
物乃中よままーけけりて居見けあ  
ふふんじけふまてまく候とせりさーれ  
あひさーをかきてぬもさうよこまをとち  
つけての仕舞腰けあつてあわて位をひ  
えそ志こひゆくの時まより舞也こまの位を  
ひらえ志こひゆくとつあ候よ合きて物  
るきいもちなり曲舞乃まーめより舞うても



およせしちき仕舞をなくらんい舞人多身勞  
みく面白いんをてつうき流るるめてんり  
一面を見るやうに事まる面乃おぢひ哉とわ  
面のうちよあてめんれ流をつけらぬ哉たの  
まよとりてたのまをけき見へし是は考人の  
流あやくの見様也回をさししむたまへ  
一大信忌知し上まうけ此事し高流いおへ二筋  
みゆるやうまかふ也太和い一筋うろへ  
二まぢまゆるやうふかく也  
一面のたのゆひやううううううううううう  
ううを二まぢまううのきてゆあもあり一筋  
志こへなわうるす乃う人みゆあこと申也

一 中おの面わり男の面かつりいまゆのあると  
あきことわりり也まゆのあるまはまのけ  
うきままー又まゆすこちかぬまはま見のけ  
あきまへ右乃るりめなわ  
一 児と童子めんといおあしうろあまとも  
かつりらぬいちこいけたうきうかちせよて  
是もま見のけうきあまゆすも哉たうなわ  
又童子乃面いかなかんあまりよけさくあく  
みこまかまてま見乃きうけあり  
一 めんれ事あまりあこしきいきうめきそ  
あき物なわまこあしきみふくきとそ  
おまらあまきそしをけしう色物見く也



一 ぎ物也よきかとのあつきむよ。

一面乃孫の事一 女面い家男面いあさきせう乃  
めんい志ろ一 鬼の敷いつりもきもあり

一面のうけやう乃事一 そろひは作也一人の  
と一 さいつく所乃事一 此をゆく可一 するま  
りけ二十四五の時乃事一 を作らるるのふよ  
わうおとこあともあま一 くらわの男い  
十八九うか也か横の事一 よくいれ入

一 釋く乃見だき三つあり真宗行也其の乱きい  
かこの功もていなわりくきことなわひさく  
さへるありさくぬるありあひありこる  
もちあは事一 也付るこれ乃録也一 乃るたま

あ一 を右たよよろいあけらさて明送り煮の  
足を少む時足とゆ一 又大夫候一 足をたる  
時よりみとゆ一 もありま一 所より物も時七  
ありあき時もあり真宗行よよ候一 一 此か  
おりの小袖乃うんよ一 帯するあり習ひ  
口傳あり

一 考の僧よきむしききのあ衣きするまらるあ  
僧の位よよりきまへ

一 むしききれあ衣大夫きるる一 同お是も終よ  
ゆく一 人乃位よよりてきるへ一 むきとい  
い家よといきせぬ物也ちやうきん舞きね同あ  
一 物ねれお立ひやく忌よてぬきうけくるへ



百葉あといふ忌部一坂きりつゝろき忌部  
まへを抄りてり又い志つろ忌部一忌部一  
うきおわりあとい中しきぬ忌部一なり

一たせをよろめ志ろきうまき忌よら音の  
内乃てせをとりの儀なりぬい取梅乃ちやう  
きん忌よらうてひよちせとの女けきぬあ  
薄父乃ちあそめあらんみとり儀なり

一大臣忌き中よりさ乃名繁も人の位りりりて  
も一大臣あとい名繁も公家のわさたりの  
あがしひりりへおしこ奥こ乃大臣一也  
うやうのりりあはあひ也いりり  
一うろ帯れ事一南流いひと人也大臣かりい

志こけといひてあへすりなり又つるの  
うろ帯れ事一南流いひと人也大臣かりい  
りりてめまはもあ

一大臣乃出立二人い一席い乃うわきぬ忌よら  
中よりきい色をう人もやうけたあくりりきぬ  
忌よら

一僧わさ三人いおる能あとい二人い同い此  
水衣うろ一中よりき僧乃位りりりてろり  
あへもやういひるいろの水衣きまへし

一三輪乃及のおきたいまきぬ大はきんのりき  
おわりらあだまうこおあひりり乃上よりけ  
一舞きぬのりろい黄なりり白きり中なりわ



一 百菊乃見之商流ハ上下ヨテおとこわきなりわ  
大和カ〜り僧わき也

一 女物程のねがひかつ〜のうけ換乃すあまわり  
みつき女〜あねがひかつ〜乃と〜よけく  
ろひそ〜ゆ〜く〜か〜ゆ〜はあ〜ひおか〜  
〜てか〜ゆ〜おひなともあふゆ〜きむよ  
〜ら〜乃も〜い〜ゆひ〜ら〜き〜つ〜の〜能〜は  
小袖下へあ〜〜

能乃舞臺の檣あ〜りの事

一 大庭乃舞臺ハ三層四寸ひさ〜い〜う〜あ〜成  
〜し〜ん〜の〜た〜り〜五尺也舞臺の〜は〜よ  
一 層あま〜り置て〜さ〜尺あま〜り〜檣を〜る

物なりた檣乃たりきろんの上よ〜の仕舞ハ  
あま〜ちあ〜く〜み〜能あ〜いなる物也〜れ  
〜ん〜やく〜急の能を〜下〜り見あ〜け〜  
あ〜ちあ〜の〜き〜い〜一人を〜せま〜〜きた〜め  
又い時のつひる〜口端な〜の判さ〜も〜  
〜れ〜ん〜さ〜や〜よたあ〜き〜舞臺〜いあま〜り  
を〜能〜を〜ぬ也〜〜〜以〜を〜る也  
一 中此舞臺ハ二層まあり四寸也是もひ〜  
〜う〜が〜〜は〜是を舞臺〜り一層置て  
〜ゆ〜り〜た〜り〜五尺を〜の〜き〜  
か〜り〜へ〜人の〜ゆ〜き〜ん〜ぬ〜  
ゆひき〜て〜む〜縁乃た〜さ〜四尺也



一 小庭北のふちといふ二層四本の舞臺もよくい  
こももひごういそくつあし見合あるへい  
四層乃少といふういこもき居座いあんをいこ  
まへしふたの乃えんのささ三尺

一 揚かりれ長され奉一丈庭のい十三層十一層  
なか中のい九層七層也いかきい又層なり  
ふきんよりいかくうてい終なりわい揚  
あかりよ多くのあしひい持あきとるいかく  
まあけきよていあしきあまのい物却一とや  
なともまききとより揚のあしひこはほくうら  
いありいかり終乃かんい也

右いつとも考り換子なり此おの終い

お換子替はへしつこきなとのさ  
は見抛取のあつあつよよはへし

一 此おの所終乃舞臺は正面は庭へきさ  
ありこもい舞のうちは大更此おへめい奉  
ありうれ時のためなりわきさ橋とをい見抛  
をうぬいのなり

一 庭を乃おの舞臺い板板乃うらうらおあき  
より舞臺をたかく板ををさる也

右舞臺のあつりの圖大す

一 ひろきふたにいせをきあていかりき揚かり  
中乃揚かりりいりきとるいかりとるいり  
うらかり相應乃仕舞の所もわらもち肝胃也



一あひひともあく似ころ仕舞きぬものなわよく  
うーあまううううー

一女能ううう太鼓ぬき靱太鼓く仕舞ああうい  
いもちまうう一脩羅あとのうせいちうあう

よく分判うう一但女のうううもちゆきすき  
ううー又仕舞ううううううううううう

一夕ううううすあうううううあわうううう  
あうう源氏を見うううううううううう

一うううあまううひうううううううううう  
あわう南座のうううあうううううううう

一月待かとのううううねとううううううう  
あわうううう見る事ううううううううう

うううううううううううううううううう  
あ積乃たかくわうううの能うもわわき事うわ  
あううううううううううううううううう  
わううううう

一太夫うううううううううううううううう  
ううううううううううううううううう

一おさあき人乃太夫うううううううううう  
うううのううううううううううううう

うううも大夫城もとき及見をうううううう  
みふうき物也ううううううううううう

ううううううううううううううううう  
うううううううううううううううう



とまきーをんそ見あちせうんよう也

一 ときいのり乃事一席破意あへーりーめを  
志ろく小珠敷をもすりつよもるををく  
ともをなをまへし中比破るもきていのり  
はを意よいのりへし意よよすり時志あを  
さいくもとあをく初るへし但のふ  
よあへし善界舟弁天と云い初りおより意也  
る成さあふの上大形同ーお席破意ある初り  
たわげに持いつまへむわとへ

よろしの終れいもちの事

一 終れい持おろてから時我牙を祓と思へ  
いふもけとあくゆへ

一 鬼わりの牙を鬼と扱へしつよもりつまは  
ころをもちついのるりあひ也

一 僧羅のころもちまをあげるときくさ  
らんおは時のころもち回あ

一 女わりの牙を女房と扱へしおひあををも  
ゆるくとしてころをもりつよも志れふ  
いそらんい女神よりあるものなわ

一 仏あとの能我牙を佛と思へしつよも心成  
神精ももちてけとあくつゆへし

一 幽冥我牙を幽冥と思ふをいふ色く心を  
よちくともつて

たろれくの能心もちたすあひこれ



心持あくるくハ能子う進しく乃ツき  
あひあ一右心持肝勇也げお何の能も  
是を以分別あはへ一あツれなる所ハ  
心をあたる進よもち物するきあハ心を  
まろくもちツきむ所ハいさめまくの  
心もちあらんようなり

一陰の能心もち乃るヲ物そを陰よう一城陽よ  
ハ乃へ一左横よあくるくハ能志めわりすきよ也  
一陽の能乃心持のる物もて城陽よう一城陰よ  
あそへ一左横よあくるくハ能進よもまき行や  
あくるくふり右の心持をまへ一陰陽和合と  
こまをいハ能進よもあへ一陰乃陰陽の陽と

舞色あり水無漸定家乃はまつの山か見れ  
幽冥のりくあとい陰乃陰をわ又もちりり  
海城門あとい陽乃陽也まう此事一城めつて  
いの心能の位分別あへし

たへ海く小陰乃位分別してそこ此仕  
舞まけりんよう也大才能乃極意七十  
一ヶ象は巻よ書終ま末代子をわてハ  
古人の尸をうまこ事一人こみ志わ  
くる人ま君あらんハわ進くハの尸度  
まへ小口よまうせ尸あ一あハひと云  
事一も秘事と云事一もつこつこするよ  
まへめをそあん事一城かあ一み給て



觀世音阿彌今春善作やう志々連阿彌  
出んわうそう世川は四人もわがきて  
昔今の徳藝のわくらのため是をうき  
志るし花傳書と号しのうをうき  
事一私るわく以上を以是を撰  
志るを統の天下此所志あるゆへふ  
くまんせよ是故とたし終りりぬ



